

韓国東海岸江陵地域における完新世中期以降の斜面物質移動

A History of Mass Movement at Gangneung area, Eastern Coast of Korea, Since the Middle Holocene

朴志^{1*}

PARK, Ji Hoon^{1*}

¹ 韓国公州大・地理教育

¹Dept. of Geography Education, Kongju National Univ., Korea

1. 研究目的と研究地域

2002年4月の山火事の被災地だった韓国江陵地域では、2002年8月の台風ルーサ(Rusa)により、大規模な土砂崩れが発生した。このような大雨によるマスムーブメントは、一定の環境が形成されると反復的に発生するという仮説を立て、これ検証するため、地形や堆積物の痕跡を探して研究を進めてきた。その結果、江陵地域の沙川川(サチョンチョン)流域と?谷川(ヨンゴクチョン)流域では、完新世中期以降の斜面物質移動史を把握することができる、無機物層と有機物層が互層をなす分解能の良い堆積層(または土壌層)例えば、最上流谷底の堆積層をはじめ、河岸段丘、氾濫原や現下床の直上に分布する斜面起源の崩積層などが発見された。本発表では、これら両流域で発見された堆積物層を対象に、層序の解釈および無機物層に挟まれた埋没腐植物層(または有機物層)の炭素年代測定に基づき、調査流域での斜面物質移動史を明らかにしようとする。沙川川は、?路延長が23.70kmで、流域面積は60.02?である。基盤岩は中生代ジュラ紀に形成された大宝花崗岩であり、現在の沙川川周辺には深層風化して赤色を帯びる基盤岩風化層が数?数十mの厚さに達している。特に、流域内の複数の場所で差別浸食の結果として生じた、風化層内に埋まっている核石(core stone)や、地表に露出したトア(tor)が所々見られる。

2. 分析結果と考察

最上流谷底の場合、ギロギゴル(Loc.1)で発生した斜面物質移動は、740?260yrB.P.の間に2回、260yrB.P.、その後2回である。またソクグゴル(Loc.2)で発生した斜面物質移動は、6,700yrB.P.から現在までの間に約10?20回である。河岸段丘背後の斜面の場合、Loc.3で発生した斜面物質移動は、河岸段丘形成後約2,000yrB.P.までの間に少なくとも1回、約430yrB.P.から現在にかけて、少なくとも1回ある。氾濫原背後の斜面の場合、Loc.4で発生した斜面物質移動は約2,800yrB.P.頃以降少なくとも1回である。現河上の背後斜面の場合、Loc.5で発生した斜面物質移動は、A.D.1869年以前に少なくとも1回で、A.D.1869年以降に少なくとも3回である。以上のように、調査地域の様々な地形場で、完新世中期以降の数?数十回にわたって斜面物質移動が発生したことが明らかになった。

キーワード: 江陵, 完新世, 斜面物質移動, 谷底, 河岸段丘, 氾濫原

Keywords: Gangneung, Holocene, valley bottom, mass movement, river terrace, floodplain